

1623 **【突】** 穴部 5 画 総画 10 画 国字

〔読み〕 あなあな のろう

〔解説〕 『譬喩盡』の「聞書急用名目但仏家所化の用也(きゝがききうようみやうもくたゞしぶつけしよけのようなり)」という見出し項目の解説文中に「突煩惱(あなあなぼんのう)」、『小野篁諺字盡』に「のろふ」とある。「あなあなぼんのう」の後の「あな」は、繰り返し記号がつかわれている。

1624 **【窀】** 穴部 6 画 総画 11 画

〔読み〕 しぬ

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』に「シヌ」とある。『漢語大字典』が『改併四聲篇海』を典拠に「直耕切」、『字彙補』を典拠に「音橙。義闕」とする。中国で意味が失われているので、「しぬ」が国訓か否かわからない。

1625 **【窳】** 穴部 6 画 総画 11 画 国字

〔読み〕 うくる

〔解説〕 『法華三大部難字記』に「ウクル」とある。

1626 **【窳】** 穴部 7 画 総画 12 画 漢字

〔読み〕 カン みやづかい つれつ きみ つかさ おおやけ つかまつる すさまじ つかう すなし みやづかえす つかまつる つかさどる みやつくり すほめり つかふまつる すほめり

〔解説〕 『黒本本節用集』・『饅頭屋本節用集』に「ミヤヅカイ」とあり、「宮仕(みやづかい)」の意の国字とする説がある。『朝鮮本龍龕手鑑』が「音患士一也」、『漢語大字典』・『中華字海』が『篇海類篇』を典拠に「同宦」とする。意味もほとんど同じで国訓でもない。『観智院本類聚名義抄』に「俗官字」、『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「ミヤヅカイ クワム」、『寛元本字鏡集』に「垣 クワン 官 官 ツレツ キミ ツカサ フホヤケ ツカマツル スサマシ ツカウ スナシ ミヤヅカヘス ツカマツル ツカサトル」、『堯空本節用集』に「ミヤヅカイ」、『米沢文庫本倭玉篇』に「クワン ミヤヅクリ スホメリ ツカフマツル」、『玉篇略』に「クワン スホメリ ミヤヅカイ ツカマツル」、『玉篇要略集』に「ミヤヅカイ クワン」とある。『寛元本字鏡集』の「ツカサ」は朱書されている。

1627 **【窳】** 穴部 7 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 かわらや

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『音訓篇立』に「カハラヤ」とある。『永正本字鏡抄』はやや字形が崩れている。

1628 **【窳】** 穴部 7 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 つちくら

〔解説〕 『大東急記念文庫本伊呂波字類抄』(四卷)に「ツチクラ」とある。

1629 **【窳】** 穴部 7 画 総画 12 画 「窳」また「窳」の異体字か

〔読み〕 ソウ くだ まど

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「七江反 クド」、『早川流石写伊呂波字類抄』に「クト 音総」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』

に「七江反 クト」、『音訓篇立』に「サウ音」、『法華三大部難字記』に「カマノクト」とある。『倭字攷』に「マト」とあり、『国字の字典』が「窓(まど)」の意の国字とする。『小学館古語大辞典』に「くど【竈突・竈】①かまどの後方にある煙出し穴。②かまど」とあり、①には、『倭名類聚抄』から「窓久度 竈後穿也」と引用されている。『倭字攷』は「窓」の、他は「竈」の和製異体字であろうか。

1630 **【窳】** 穴部 8 画 総画 13 画 国字あるいは「窳」の異体字か

〔読み〕 うつろ

〔解説〕 窳坂(うつろざか)は福島県大沼郡会津美里町(旧:大沼郡会津本郷町)の地名。『鰻頭屋本節用集』に「ウツロ」とある。『易林本節用集』には「洞 ウツロ 窳 同」とある。音は確認できないが、国字ではなく、「窳」の異体字とも考えられる。

1631 **【窟】** 穴部 8 画 総画 13 画 国字

〔読み〕 おぼつかなし

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「ヲホツカナシ」、『篇目次第』に「ヲホツカナシ 无」とある。やや崩れた字で、『龍谷大学本字鏡集』に「ヲホツカナシ」とある。穴居するがごとく、家の中にこもっている、外の社会のことを知ることはおぼつかないという意味で作った字か。「窟」参照。

1632 **【霍】** 穴部 8 画 総画 13 画 「ヤツス」は、国訓

〔読み〕 やつす

〔解説〕 『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』・『拾篇目集』に「ヤツス」とある。『天文本字鏡鈔』に「ヤツコ」とあるのは、書写時の誤りか。『大阪府立中之島図書館本五音篇海』に「音霍」、『中華字海』に『龍龕手鑑』を典拠に「霍的訛字」とある。「ヤツス」は、国訓と考えられる。

1633 **【窳】** 穴部 9 画 総画 14 画 国字

〔読み〕 あだなり

〔解説〕 『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「アタナリ」とある。本来なら、祝うべき様な事であったのに、穴(欠点)があって、それがあだになったという意味か。

1634 **【窳】** 穴部 10 画 総画 15 画 国字

〔読み〕 おぼつかなき ふさぐ たしなむ せむしめ

〔解説〕 『永禄二年本節用集』・『堯空本節用集』に「ヲホツカナキ」、『拾篇目集』に「フサク タシナム セムシメ」とある。『倭字攷』が『盛衰記』・『平家物語』から「オホツカナシ」と引き、『国字の字典』が「覚束(おぼつか)なし」の意の国字とする。『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』にもあるが注文がない。『寛元本字鏡集』にも注文がないが、「白无」と狩谷掖齋が朱書している。『篇目次第』に反切があるが、『中華字海』などがない。『廣漢和辭典』に「国字 おぼつかない(おぼつかなし)。」とある。「窟」参照。

1635 **【窳】** 穴部 10 画 総画 15 画 国字

〔読み〕 とく つく あざむく しえたり しえたく ねらう てらう

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「トツ ツク アサムク」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』に「ツク トク シヘタリ アサムク」、『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「ツク トク アサムク シヘタク」、『篇目次第』に「シエタク 无」、『拾篇目集』に「シヘタク」、『文明本節用集』・『天正十七年本節用集』に「子ラウ」、『惠空編節用集大全』に「ねらふ」、『法華三大部難字記』に「シエタク」とある。『和字正俗通』に「子ラフ」とあり、『国字の字典』が「狙う(ねらう)」意

の国字とする。「ネラウ」は新しい訓義といえる。『廣漢和辭典』に「国字 てらう(てらふ)。」とある。「欺(あざむく)」「虐(しえたぐ・しいたげる)」などの意で作られた字に、のちに「ねらう・てらう」などの意が追加されたものか。「𪔐」・「𪔑」参照。

1636 **【窶】** 穴部 10 画 総画 15 画 国字

〔読み〕 あみ

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』・『音訓篇立』に「アミ」、『篇目次第』に「アミ 无」とある。『寛元本字鏡集』に「ア」とあるのは、「ミ」の欠落であろう。「網」の意の国字か。

1637 **【窺】** 穴部 11 画 総画 16 画 国字

〔読み〕 あかし ふかし あやし

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『龍谷大学本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「アカシ」、『永正本字鏡抄』に「フカシ」、『寛元本字鏡集』に「アヤシ」とある。穴のような暗い所から明るいところに現われて、姿を明らかにする意であれば、「アカシ」が正しいか。

1638 **【窶】** 穴部 11 画 総画 16 画 「窶」の誤字か

〔読み〕 かわらやくかま

〔解説〕 『音訓篇立』に「カハラヤクカマ」とある。「窶」の誤字もしくは俗字か。

1639 **【窶】** 穴部 11 画 総画 16 画 国字

〔読み〕 ほつ

〔解説〕 明ヶ窶(もがほつ)は鹿児島県鹿児島市の地名。

1640 **【窶】** 穴部 12 画 総画 17 画 国字

〔読み〕 ようやく

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『応永本字鏡集』に「ヤウヤク」、『篇目次第』に「ヤウヤク 无」とある。『寛元本字鏡集』にもあるが注文がない。

1641 **【窶】** 穴部 12 画 総画 17 画 国字

〔読み〕 ふかし

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『龍谷大学本字鏡集』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』・『音訓篇立』に「フカシ」とある。